



日本聖公会婦人会 2023年10月25日発行

ニュースレター No.76

〒297-0032 千葉県茂原市東茂原 10-192 永井眞由美方

電話/FAX 0475-24-6915



真理の内に歩む婦人になりなさい（ヨハネの手紙 二から）

日本聖公会婦人会チャプレン
司祭 テモテ 姜 曉俊

新約聖書には多くの使徒から初期キリスト教会の信者たちに送られた手紙がありますが、唯一、受信者が女性と子どもになっている手紙があります。ヨハネの手紙 二であります。ヨハネの手紙二・第一章一節は「長老の私から、選ばれた婦人とその子どもたちへ。」となっていて、教会の長老ヨハネ（このヨハネが使徒ヨハネと同一人物かどうかは議論があります）から教会の女性たちと子どもたち宛に送られたものです。わざわざ受信者を女性と子どもに限定したのは、手紙の本当の意図を隠すためとも言われていますが（当時の女性と子どもの社会的地位はとても低かったので、女性と子ども宛に送られた手紙は人もあまり注目していませんでした。手紙の本当の意図を隠すために女性と子どもを受信者にしたのです。）聖書で聞き手が婦人と定められるのはこの手紙だけです。で、「婦人会」という特別なメンバーシップを持っている私たちには特別に感じられるところもあると思います。



手紙の内容は極めて簡単で、婦人たちに向かって「互いに愛し合いなさい」と勧めが出され、「互いに愛し合うことは御父の戒めに従って歩むことです」と解説されます。そしてさらに「御父の戒めに従って歩むことは真理の内に歩むことです」と説明されます。「真理の内に歩む婦人になりなさい」これこそが長老ヨハネが本当に伝えたかったことです。

当時教会の中には「イエス・キリストは実は肉体を持たずに来られた方で、私たちが見たイエス・キリストはすべて霊であった」と間違ったキリスト論を唱える人たちがいました。イエス・キリストが肉体を持って来られた神の子ということはイエス様を理解するのに極めて大事なことで教会の長老たちはこの異説に信者たちが惑わされないようにこの手紙を書いたのです。間違った教えを述べる人には挨拶すらしてはいけない（ヨハネ 二・十一）と多少強い口調で言われていますが、それほど真理に根付いて信仰生活を送ることが大事であるということです。

日本聖公会の婦人会活動をよく見ていると、様々な場面で大切な働きをしていることが分かります。世界中の助けが必要な人々のために支援をしていて、教会の働きも色々なところで支えていることが分かります。しかし、このような活動を満足に行うためには、やはり婦人会に繋がっている一人ひとりが真理に基づいて歩む人になるべきではないかなと思います。「真理に基づいて歩む」と言われたら大変なことのよう聞こえますが、実はそうではありません。神さまについて知りたい、イエス様について知りたい、神は私たちに何を求めている、私たちはどう生きるべきかを知りたい、このような気持ちで信仰生活を送ること、それが大事だと思います。人間は不思議なことに自分が好きなものに関しては知りたがるので、すぐに多くのことが学べます。どうか、皆様が大好きなイエス様についてもっと知りたいという気持ちを持って婦人会活動に携わっていただければと思います。

そういう意味で次回の婦人会会長会の時は学びの時間というものもあると良いのではと考えたりしています。あまり長くならないように気を付けながら…

第 27 (定期) 総会後第 1 回会長会報告



2023 年 6 月 20 日、21 日の 2 日間にわたり、日本聖公会婦人会第 27 (定期) 総会後第 1 回会長会が行われた。完全対面方式での開催は 4 年ぶり。9 教区婦人会の会長(代理 1 名)ならびに傍聴者をはじめ総勢 35 名が横浜聖アンデレ教会に集合した。13 時より受付開始、14 時から主教座聖堂にて開会礼拝が行われる。その後アンデレ教会会館へ場所を移し 14:45 より議事が開始された。

報告は役員会、感謝箱献金事務局、ACWCJ (アジア教会婦人会議日本委員会ならびに同関西支部)、会計検査、本会会計と行われ、すべて承認された。

次に 9 の議案に対しての審議に入り、すべての議案が賛成多数をもって無事可決された。それぞれの議案でパワーポイント等での映像説明を加え、またお献げ先に関する資料等も前もって配布し、質問もとくになく議事はスムーズであった。

決議第 1 号	中東エルサレム教区「聖地ろうあ子どもの里」(HLID)の運営費の一部援助、及び 2 ケ所のシリア難民キャンプでの支援活動の継続のために 20 万円を 2023 年の 1 年間お献げする。
決議第 2 号	バングラデシュの少数民族、ガロの女性たちの生活支援と自立を目指す活動を現地の「リグリマ・バングラデシュ」と共に支援する「リグリマ・ジャパン」の働きに 35 万円を 2023 年度の 1 年間お献げする。
決議第 3 号	ケニアのキテンゲラ市にある NGO 団体「サイディア・フラハ」の活動に対し、35 万円を 2023 年の 1 年間お献げする。
決議第 4 号	アフリカのコンゴ民主共和国にある、産婦人科医デニ・ムクウェゲ医師が運営するパンジ病院に必要な支援(衣料品、生活用品、コロナ対策用品などの必需品を寄贈)を日本の NGO 法人 RITA-Congo を通じて支援する。20 万円を 2023 年の 1 年間お献げする。
決議第 5 号	2023 年から 3 年間、災害被災者支援積立金として、感謝箱献金から毎年 30 万円を積み立て、大震災および、国の内外で新たに支援が必要な災害被災地への支援のための資金として、感謝箱献金から毎年積み立てる。この資金の支出については、役員会と感謝箱献金事務局(コア)運営委員会で協議し、役員会で決定し、各教区婦人会に報告する。

決議第 6 号	「地域支援団体釜石支援センター望」への活動支援として、2023 年度に 10 万円をお献げする。
決議第 7 号	「一般社団法人 すこやか会ふくしま」の活動支援のために 10 万円をお献げする。
決議第 8 号	中部教区「NPO 法人ワンダタイム」の活動のため。特に海外医療協力事業として、バングラデシュの病院への医師派遣に必要な経費の一部として、2023 年度 1 年間 10 万円をお献げする。
決議第 9 号	中部教区「国際子ども学校 (ELCC)」の活動のため。教材や遠足の費用等、必要な経費の一部として、2023 年度 1 年間、20 万円をお献げする。

＊決議第 4 号は、現地の事情と RITA-Congo の決定によりムクウェゲ医師の社会啓発活動（紛争下の性的暴力を無くすために、紛争鉱物を規制する国際的な決まりを作る必要性を世界に向けて発信する）に感謝箱献金をお献げすることとした

引き続き 16 時より被献日献金活用申請・有志グループ枠の審議に移る。各教区会長と傍聴者、役員会からは会長・副会長の計 20 名が参加するが、各教区 9 と役員会 1 の 10 票で審議する。立ち合いには担当主教、役員会チャプレン、役員会の書記 2 名と会計 2 名が加わり 26 人での会議となった。有志グループ 2 か所からの申請があり、どちらも過半数を得て可決されたが、採決後に申請に関する質問やご意見が上がり、図らずも有意義な意見交換の場所となった。審議の一端であることから詳細には触れないが、被献日献金は日聖婦の活動の柱の一つでもあり、特に有志グループ枠は会員どなたでも申請できる枠であることから、有意義に用いて頂きたい、そのために理解を深めることができたと思う。

【教区婦人会枠】

教区	申請金額	申請目的・内容・実施日
横浜	60,000 円	2023 年度横浜教区婦人会大会の補助金として。 日時：2023 年 6 月 27～28 日 会場：マホロバマインズ三浦
京都	60,000 円	2023 年 9 月 16 日に富山で開催の「京都教区婦人会代表者会」のため。
神戸	60,000 円	2023 年 5 月 9～10 日に開催される第 19 回神戸教区婦人会代表者会・親睦会のため。

【神学生枠】

申請者	申請金額	書籍名
小野 恭子	47,170 円	新版 賛美歌 その歴史と背景 他 (計 8 冊)
大倉 有紀	49,390 円	カルヴァン 新約聖書注解 共観福音書 (下) 他 (計 2 冊)
薦田 久美子	50,000 円	The Interlinear Bible : Hebrew-Greek-English 他 (計 5 冊)
川島 創士	29,910 円	総説 旧約聖書 他 (4 冊)

【コア枠】

申請金額	申請目的・内容・実施日
200,000 円	感謝箱献金の働きについての理解を深めるためにお献げ先の訪問、報告会、またお献げ先の人々のかかえている背景、社会の仕組みなどについて学ぶ機会を持つために。

【有志グループ枠】

*北関東教区/大宮聖愛教会婦人会	
「二つの教会をめぐる石の物語」展覧会 鑑賞会と学びのため	45,000 円
*横浜教区/林間聖バルナバ教会婦人会	
国立ハンセン病資料館訪問と学びのため	50,000 円

18 時から横浜聖アンデレ教会の夕の礼拝に参加するため、主教座聖堂に全員で移動、渡部明央司祭司式のもと、心をひとつに祈ることができた。引き続き、18 時 45 分からの夕食、その後のフリートークの時間はあっという間に過ぎ、19 時半からは感謝箱献金事務局チャプレンの出口崇司祭により就寝の祈りを献げる。少し早めではあったが、今回は各教区の方々に宿泊パックで宿と交通機関を手配していただき、それぞれお宿が違っていたので、早めの解散とした。

2 日目は9時からの聖餐式に始まる（司式・入江修日聖婦担当主教、補式・姜暁俊本会チャプレン、補式・出口崇感謝箱献金事務局チャプレン）。各教区・及び感謝箱献金事務局、本役員からの代祷や逝去者のお名前の読み上げ、また姜司祭のお説教をいただき、集められた信施はベタニヤ・ホームの大規模改修工事のために献げられた。

引き続き 10 時 30 分から、分かち合いの時間をもつ。今回の会長会で、大切にしたいことの一つである対面でこそできること、顔を見合わせての意見交換だった。前もってお寄せいただいたアンケートのまとめを前日のうちに配布して先にお読みいただき、当日はとくにテーマをしばらくランダムにお声を聴かせていただいた。

所属する教区の選択した方針から今後の婦人会の形がかわってしまうのではないかと不安、どの教会でも直面している高齢化の問題、婦人会の組織をみたとき働き手の出ないことを懸念する声、、、たくさんの現実が表出しても、必ずそこに助言や勇気づけがあり、考える力を与えられたと感じている。用意した時間が足りないくらい、話は続き有意義なひとときであった。今後は各教区へ持ち帰り、続きを自由な形式で提出していただくこととし、役員会でも、再編して皆さまにお届けし、来年の会長会、再来年の総会へとテーマを絞り、婦人会の未来へと続けていきたい。話し合えることの喜び、顔の見える関係の大切さを痛感したひと時であった。

昼食のサンドイッチを少し慌ただしくいただいて、午後の勉強会は感謝箱献金お献げ先の時間としていたが、ベタニヤ・ホームの大改修工事のアピールとお祈りへの感謝ということで、ベタニヤ・ホーム後援会より青木瑞恵姉、太田純子姉が駆けつけてくださり、日聖婦とベタニヤの長い歴史の一コマについて拝聴。さらに社会福祉法人聖ヒルダ会より理事長相澤牧人司祭とベタニヤ・ホーム施設



長 村井恵子姉もお越しくださり、直面している改修工事についてご説明や状況等をお話しくださった。時間にしてほんの数十分しか取れないのが心残りであった。聖餐式で集められた 4 万 1,000 円を直接お渡しすることができた。お二人がくりかえし話された、労力的にも経済の面でも大変な事業であることを心に留め置き、皆で祈り見守っていききたい。

その後、13:00 から感謝箱献金事務局の時間として、今回はリグリマ・ジャパンの代表、上澤伸子姉をお招きし、パワーポイントと資料を基にリグリマとの交流の始まりから現在の様子など細かにお話しいただいた。最後に感謝箱献金事務局運営委員長の井田涼子姉から「感謝箱カフェ」のお誘い。少しの時間と気持ちがあれば、小さな輪の中でお献げ先の話をしたりうれしい時には感謝箱！の話をしたり、、、日本聖公会婦人会の 130 年はそんな小さな勇気ある行動によって続いてきたのではないかと思う。130 年前、女性の地位も存在も何一つ確立されていなかった時代にはじまり、自分より弱き立場の人々に目をむけ、小さな幸せを感じたときにそのうれしい思いと感謝を込めて献げる感謝箱献金。神学生はじめ小さな学びの輪の中に、有効に使っていただくための被献日献金。話題はまずこの 2 本柱からで十分なのかもしれない。いま与えられている課題をみつめつつ、前に進むことを喜びをもって信じてお伝えしていきたい、、、

私たち役員会の初年度はまだまだ未熟で粗削りだが、祈りと思考と体力をもって、二年目にむけて笑顔で働きたいと思う。

(副会長 鷺沢和子)

日本聖公会婦人会第 27 (定期) 総会后第 1 回会長会決議録『会長会を振り返って』より抜粋

教区婦人会・感謝箱献金事務局から

北海道教区

会長 神林直子

「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる」 マタイ 18:20

北海道教区婦人会第 40 (定期) 総会が 9 月 7 日 (木) 札幌キリスト教会で開催致しました。

コロナが 5 類に移行したとはいえ、まだまだ脅威が収まったとはいえない状況で迎えた総会開催年、例年通りの一泊二日の総会は見送り、初めて一日で終わる会をこの春から役員会で協議、決定と致しました。

10:00～ 聖餐式 説教は植松誠主教様にお願いしました。昼食後 議事進行、閉会感謝の祈り後、恒例の教区婦人会お楽しみのミニバザーをして 15:30 分 予定の時間に全て終了することが出来ました。

思いもかけない 90 余名の沢山の参加者、朝早く駆けつけて下さった、地方の司祭様がた、夫人の皆様嬉しい、大変な思いの中来てくださり有難うございます。当日集まった方々の笑顔とおしゃべりに、昼食を



黙食にとお願いすることが出来ないほど、楽しい集いのひとときを拝見して感激致しておりました。

思えば 2 年前、第 39 (定期) 総会はコロナ感染症真只中、対面での総会が出来ず文書総会でした。総会聖餐式だけとは強く願い、教役者、役員のための寂しい聖餐式。説教は今回と同じ、植松主教様。場所も同じ札幌キリスト教会。そのことを思い出しますとなお一層、今回沢山の方々に満たされた札幌キリスト教会が明るく輝き歓喜に満ちています。遠く

から駆けつけて下さった植松主教様、三千代さん、東北教区婦人会会長赤坂康子さん、沢山の方々の協力と祈りの中、無事総会終了して今は感謝のみです。神様のお恵みと見守りに感謝します。

東北教区

会長 赤坂康子

東北教区婦人会から2つのことをお知らせします。

①8月26日(土)により多くの皆さまに婦人会の活動を知って頂くために、教区の教役者聖職候補生後援会と共催で、社会福祉法人「カナンの園訪問」をしました。全部で34名の参加。バスの利用者は21名。被献日献金から支援をいただき実現できました。緑に囲まれた教会での礼拝、カナンのパン工場の柔らかなパン、牧場のソーセージ、新鮮野菜、手作りジャム、等美味しい昼食をいただき、カナンの園の歩みを伺うことが出来ました。教区婦人会感謝箱献金のお献げ先になっている場所を皆さまに見て頂けて良かったと思います。

②9月7日(木)こちらから希望し、北海道教区婦人会総会に傍聴者として参加させていただきました。開会礼拝では、笹森田鶴主教の司式、植松誠主教の説教で力付けられ、午後からの総会では北海道教区婦人会の素晴らしい働きを実感できました。今後東北教区婦人会が、もし一緒に活動に加わらせていただければ、うれしいことかもしれない、と、これからも交流をお願いしたい気持ちで帰ってまいりました。

主に感謝。



カナンの事業所の一つ

北関東教区

会長 秋葉 緑

2023年2月4日に久しぶりに集まって教区婦人会総会ができたこと！最近の北関東教区婦人会一番の喜びです。世代交代の感もあるなか、繋いだ手を放すことなく活動を続けていきたいという思いが感じられました。コロナ禍の影響で紙面やインターネット会議での開催でしたが、礼拝を共にし、顔を合わせて話し合うのはやはり大切だと思う総会でした。北関東教区婦人会は2024年に100周年を迎えます。教区婦人会活動の原点の一つがバザーでした。その思いを受け継ぎ、次に歩みを進めるための行事として100周年記念バザーを計画しています。バザー会場で交わされる会話や笑顔が、各教会と教区婦人会の原動力となることでしょう。最後に、日本聖公会婦人会に長年お支えいただいた「アジア学院」(栃木県那須塩原)が50周年を迎えました。クラウドファンディングも始めました。どうぞお祈りください。
(<https://ari.ac.jp>)



横浜教区

会長 田中めぐみ

主の平和がありますように

横浜教区婦人会では毎年 1 月に総会が開かれ、今年も各教会から代議員 22 名が集まり一年間の報告、会計の決算予算等の審議が行われました。

その他、婦人会大会を 1 年おきに開催しており、今年は大阪教区の北川規美子さんをお迎えしてベタニヤ・ホームの歴史について伺い、4 年ぶりに 1 泊 2 日で、みなさまとともに学び親睦を深めることができました。無事に開催できたことを感謝しております。

また、婦人会だよりを年 2 回発行し、教区婦人会の行事のお知らせや報告、『教会だより』として各教会及び婦人会の様子やお働きの報告を掲載しており、教区内の婦人信徒のみなさまの交流の場になっております。

横浜教区婦人会は婦人信徒の高齢化、会員数の減少などで婦人会のない教会は全体の四分の一になりますが、婦人会のお働きにご理解とご協力をいただき、男性信徒を含め教会全体でお支えして下さるところも増えております。

これからの婦人会のお働きに神様のお導きが豊かにありますように。



中部教区

会長 長井登茂子

中部教区には、3つの伝道区（愛岐伝道区・長野伝道区・新潟伝道区）があります。

今年は長野伝道区の上田聖ミカエル及諸天使教会で予定されている行事を紹介します。上田聖ミカエル及諸天使教会は木曽ヒノキを使用して建築した、珍しい神社仏閣様式のキリスト教会です。

行事は 10 月 28 日（土）午後、開会礼拝・聖餐式の後、講演会が行われます。

講師は「こどもねっと Lanka」代表の上鹿渡 菜穂子先生（精神保健福祉士/保育士/公認心理師）です。



こどもねっと Lanka について（上田地域でこどもと家族の子育て支援を行う。あかちゃんカフェの運営、子育て講座・研修、また子育て相談など、人と人がつながり支えあえる安心できる居場所をつくり、こどもの育ちと家族を支援する。こどもアドボカシーの活動も行っていく。福祉・心理・医療の資格を持つ専門家等によって運営されている。）

京 都 教 区

代表 大房和子



9月16日、1時30分より富山電気ビルにおいて「京都教区婦人会代表者会」が開催されました。今年の代表者会は「信徒の集い・婦人会大会」と同時開催だったため傍聴者も多く、54名が出席しました。

代表者会では、前年度の活動報告や決算報告、次年度予算案の審議、感謝箱献金のお献げ先の話し合い等が行われました。また、会の後半では昨年設立された「京都教区婦人会の運営を考える委員会」の報告を基に、各教会の婦人会の現状や今後の婦

人会の運営方法等について話し合いがなされました。

京都教区婦人会事務局は、伝道区が「二年ごとの輪番制」で担当することになっていましたが、2027年度担当予定の伝道区が高齢化等の諸事情によって担当できなくなったためです。

新体制に向け、今回京都教区婦人会の現状を出席者で共有できたことは有意義であったと思います。



大 阪 教 区

会長 鈴木久美子

大阪教区と大阪教区婦人会は共に2023年成立100周年を迎えました。



大阪教区では、6月11日(日)にプール学院メアリーズホールにて台湾聖公会訪問団、韓国男性合唱団の皆様を含め約550名が参加して記念礼拝がおこなわれました。壇上には各教会のバナー、教区旗がささげられ、歴史を感じるとともに、多数参加した子供たちに未来の希望も感じられました。

又、大阪教区婦人会は11月3日(金・休)に大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)にて、笹森田鶴北海道教区主教を説教者にお迎えして「感謝の100年～主と共に喜びをもって歩もう～」を主題に記念礼拝を行いたいと準備を進めています。

5月18日 昇天日礼拝

教区婦人会は、成立当初の 1927 年から毎年、被献日礼拝、昇天日礼拝・総会、秋の修養会と年 3 回の集まりを大切に続けてまいりました。

今年も福音記者聖ルカ日（10 月 18 日）に開催される秋の修養会では、昨年建替えられた大阪聖三一教会の敷地内に建設された地域小規模児童養護施設「つむぎ」について学ぶ予定です。



6 月 11 日 大阪教区成立 100 周年記念礼拝

沖縄教区

会長 富本牧子

沖縄教区婦人会のテーマは、エフェソの信徒への手紙第 1 章 16 節「祈りの度に、あなた方を思い出して、絶えず感謝しています。」です。テーマ設定の理由は、「自分の教会活動だけでなく、みんなで他の教会の仲間のために祈り、感謝しあう、そのような教区婦人会として歩んでいきましょう。」ということです。

沖縄教区は、沖縄県だけの小さな教区ですので、お互い、家族のような親しさがあります。奉仕としては、オールターギルド、教会内外の清掃、イースターエッグ作り、誕生カードのプレゼント、ミニバザーなどです。また、地域の支援センターの子供食堂で月一回の食事を届ける活動をしたり、DV の問題に取り組んでいる婦人会もあります。恒例の行事としては、毎年三月の第一金曜日にエキュメニカルな団体である世界祈祷日女性会(OCC)の礼拝に参加しています。今年は、台湾からのメッセージで「あなたがたの信仰について聞いています。」でした。世界の 170 ヶ国が思いをひとつにしてテーマ作成国のために祈り、喜びと苦しみを分かちあうことは大切なことだと感じています。

沖縄教区は、今年、宣教 70 周年を迎え、「さあ、立て、ここから出かけよう」のテーマで 9 月 23 日に記念礼拝が開催されました。首座主教武藤謙一師から力強いメッセージをいただき、これまでの長い年月、どんな苦難にあってもいつも神が助け手を送ってくださり、支え、導いてくださったことを確信することができました。このことを心から感謝すると共に、私たちも、この恵みを分かちあって、宣教の業に励んでいきたいと思ひます。婦人会としては、ささやかなミニバザーをしたり、聖歌隊として奉仕をしました。

これからも、自分ができる小さな一歩が、神様に喜ばれるよう、共に祈っていきたいと思っています。



感謝箱献金事務局 (コア)

運営委員長 井田涼子

マザーテレサのカレンダー

朝起きて一番に出会うのは、姿身の横にあるマザーテレサのカレンダーです。
写真の横に、「豊かすぎる人たちがいれば、必ず貧しすぎる人たちがいます」の言葉。
後ろには片柳弘史神父（イエズス会司祭）のメッセージがあります。豊かな国の人びとが自分たちさえよければいいと、貧しい国の人たちのことを考えないなら、それは戦争を引き起こす原因となります。

「いつ、世界が平和になるのか」と聞かれたマザーは「それは、わたしたちが分かち合うことを学んだときです」と答えました。便利さと快適さが当たり前のよう暮らしていると、分かち合うことがとても困難なことに思えます。けれども、感謝箱献金を通じて、悲しんでいる人、苦しんでいる人と出会い、共に祈る時、わたしたちはこの世界に小さな平和を実現し、分かち合っていることを心に留めましょう。

2023 年度被献日献金活用実施報告

【教区婦人会枠】 神戸教区婦人会

「被献日申請献金をいただいて」

代表 赤木輝美子

主の平安をお祈りいたします。

2023年5月9～10日、岡山聖オーガスチン教会、岡山プラザホテルを中心に代表会・親睦会を開催いたしました。

皆さまとお顔を合わせ交わりの時を持つのは6年ぶりの事でした。

2020年5月第52回神戸教区婦人会大会の準備も整い、後は当日を待つだけとなっていましたところ、コロナ感染拡大のため中止となりました。広島で準備された大会は全会員に大会報告書、講師の先生の冊子を送付するに留まり残念なことでした。同時に開催予定の代表者会は延期といたしました。その後代表者会を行いたいと何度も試みましたが、コロナ禍の中、神戸教区は広範囲に渡り思うようにはいきませんでした。

今年の代表者会・親睦会もコロナ感染がまだ落ち着かず不安な中、私たちの願いが叶いますようにと、



祈りつつホテル探しなどの準備を進めてまいりました。

当日は天気にも恵まれ後楽園を見下ろす素晴らしいホテルにて、ゆったりとした雰囲気の中、会を持つことができましたことに感謝いたします。

当日午後 1 時より開会礼拝。代表者会を開催、提出した議案並びに次期新事務局代表、次期大会開催地も決まり、6 年間の長期にわたった私どもの事務局も新しく明石の地に移ることになりました。夕食後は各方面の方々のご協力をいただいたプロジェクターを使って「感謝箱献金」「被献日献金」の奉獻先の様子を報告いたしました。また日本聖公会婦人会・神戸教区婦人会の感謝箱献金・被献日献金の納入状況のグラフを作成し皆様に見ていただきました。

第 27 回日本聖公会総会での「日本聖公会における女性司祭按手に至る道」のお話も皆様に紹介いたしました。



2 日目は聖餐式に続きランベス会議の様子を小林主教様に「女性の目から見て実感されたこと」など主教夫人恵子様に映像を見ながらのお話しはとても身近に受け止めることができました。

その後グループに分かれテーマを決め「分かち合い」の時の持ちました。久しぶりの話し合いで予定時間を大幅に過ぎましたが、皆さまの生き生きとした話し合い、笑顔に出会い、とても充実した 2 日間でした。これも被献日献金を使わせていただき、十分なおもてなしが出来、楽しいひと時が持てましたことに感謝いたします。

役員会より 2 年目を迎えて

日聖婦役員をお受けし、神さま、皆さまのお支えのうちに一年目を無事に終える事ができ、感謝申し上げます。

今後はより一層、感謝箱献金、被献日献金の働きを会員のみならず、全ての信徒の皆さまにご理解頂き、ご協力を頂けるよう進めていきたいと思っております。

2 年目、3 年目に向けてご意見などがございましたら、是非役員会までお寄せ下さい。

宜しくお願い致します。

(会長 永井眞由美)

目の前のことを必死にこなすだけで精いっぱい的一年でした。息切れしています。

メンバーにも迷惑をかけてばかりですが、仕事をもっているこんなに楽しくお役を引き受けられることが皆さまに伝わったらいいなと思っています。婦人会の 130 年前の歩みを思うと、これを広めて受け継いでいく、その重要さを改めて思います。1 年目だから許されたこともたくさんあるのでプレッシャーですが、もともと細かいことは気にしないタイプなのでもう前向きになってます笑笑 (副会長 鷺沢和子)

日聖婦の役員をお受けして 1 年が経ちます。右も左もわからずミスすることも多々ありご迷惑をおかけしましたが、ひと通りのお仕事を経験し、ほんとうにチームワークよくお仕事を進めることができるようになりました。会員の減少などに直面している今だからいっそう、皆様とのつながりを深め、一緒に考え、大切にしてきたものを継続していけるようにと願っております。

2 年目もどうぞよろしくお願い致します。

(書記 岸野真理子)

この 1 年は手探りなばかりで、特に印刷物の発注は、出来上がるまでドキドキして心臓にとっても悪いことを引き受けてしまったと思っています。2 年目も同じようにドキドキしながら、しかし少しでも前に進めるような仕事ができればと思います。(書記 大森絵里)

「私はあなたとともにいる。これが、私があなたを遣わすしるしである。」とのみ言葉を胸に皆様から預かりした尊いご献金をしっかり管理しなくてはとの思いで駆け抜けた 1 年でした。会長会では皆様から多くのことを学ばせて頂き婦人会への熱い思いと前向きな姿勢に感動を覚えました。微力ではございますが皆様のお祈りとご協力に支えて頂きながらお役目に励んでいきたいと思っています。(会計 瓜本恵子)

昨年の 9 月、日本聖公会婦人会のことを何もわかっていないまま、私は役員任命式を迎えました。

この 1 年は、今までの会計簿と領収書を頼りに何とか役員の皆様について歩んできました。日聖婦の長い歴史の中のほんの一時期、私が携わることが出来ている喜びと感謝の気持ちを持って、2 年目からも共に学び、努力していきたいと願っております。(会計 渡辺悦子)

6 月の日本聖公会婦人会第 27 (定期) 総会後第 1 回会長において感謝箱献金事務局スタッフの任期を終え、引き続き役員会のホームページ担当を仰せつかりました。

「ニュースレター」「ガリラヤのほとり」をはじめ、種々のお知らせを日本聖公会婦人会のホームページに掲載しております。素人仕事なので読みづらいところもありますが、是非ご覧下さい。スマホでもご覧いただけます。QR コードをご利用ください。

次はほかの方に引継ぎができるようにデータ整理に勤めます。(ホームページ担当 日暮直子)

編集後記

猛暑が過ぎ秋も深まってまいりました。

コロナ感染拡大により婦人会の活動も自粛を余儀なくされておりましたが感染状況が一旦落ち着きをみせ活動が再開されました。

今号では各教区婦人会からお寄せ頂いた活動報告と久しぶりに対面で行われました会長会の報告を掲載いたしました。皆様とぜひ喜びを分かち合いたいと思います。

会計 瓜本恵子・渡辺悦子



日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。

『ニュースレター』『ガリラヤのほとり』も掲載しています。

ぜひご覧ください！

<http://www.nskk.org/fujinkai/>



日本聖公会婦人会ホームページ

*ニュースレターNo. 75 で、入江修主教を、「日本聖公会婦人会担当者」としましたが、「日本聖公会婦人会担当主教」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。